

サハリン州における玉ねぎ 栽培技術指導の取り組み

新篠津つちから農場（株）

取締役 廣船 史也

きっかけ

- ▶ 2015年に極東視察（自費）
 - ▶ 海外事業展開を模索
 - ▶ なぜロシア？ →エネルギー資源等の国力があり、なにより他の企業が展開してなかった
- ▶ 帰国後北海道銀行から案内
 - ▶ 安倍前首相、プーチン大統領との会談で経済協力を約束
 - ▶ 農業分野において協力

新篠津つちから農場が協力することに

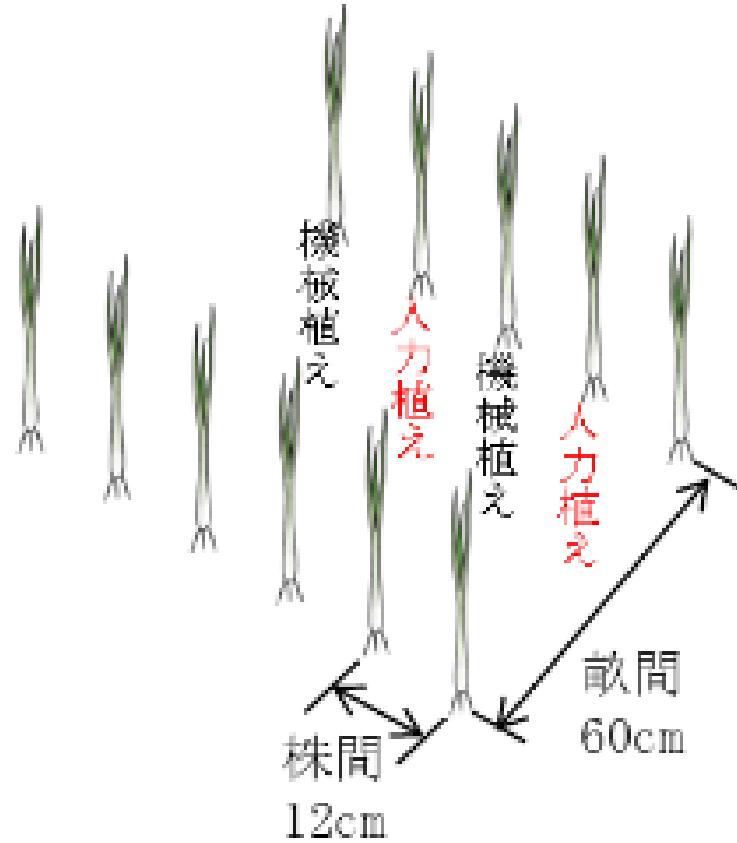
ソフォーズ・チプリチニー社の玉ねぎ栽培方式 (~2017)

- ▶ 露地では馬鈴薯が中心で玉ねぎはほとんど栽培されていなかった。
- ▶ 10年ほど前から試験的に栽培を始める。
 - ▶ しかし十分な成果が出なかった (20 t / ha)

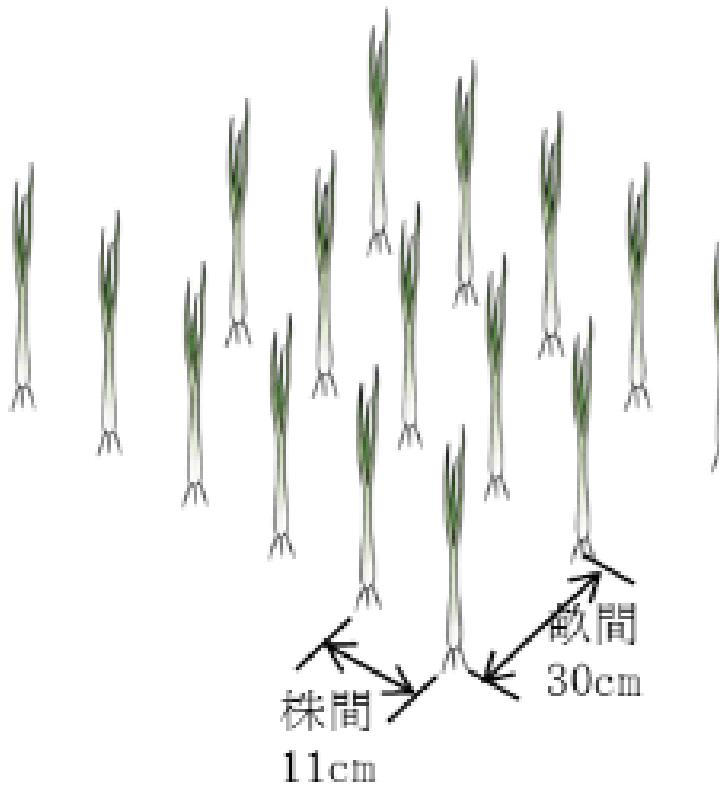
栽培方法	概要
直播栽培	種子を直接圃場に播種する方法
セット球栽培	セット球と呼ばれる小玉の玉ねぎを苗の代わりに植え付ける方法
移植栽培	種子を育苗トレイに播種を行い、温室で育苗し、圃場に移植する方法 (北海道の栽培に近い)

ソフォーズ・チプリチニー社の玉ねぎ栽培方式 (~2017) ②

▶ 移植栽培



北海道の玉ねぎ栽培方式



チプリチニー方式と北海道方式との比較 (移植栽培)

	チプリチニー方式	北海道方式
作業能率	12時間 (1 h a)	5~6時間 (1 h a)
作業人数	14人	3人
移植株数	13900株	30300株
平均収量	25~30 t (1 h a)	50~60 t (1 h a)

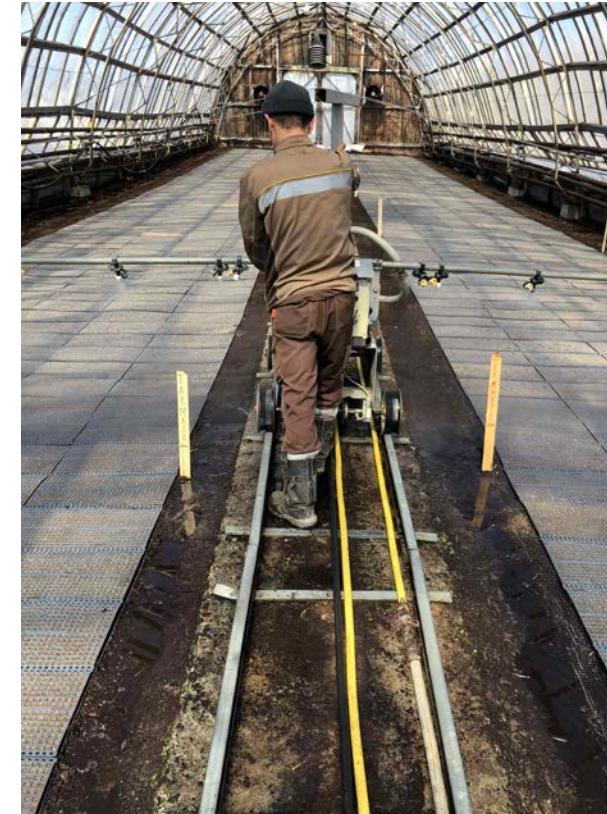
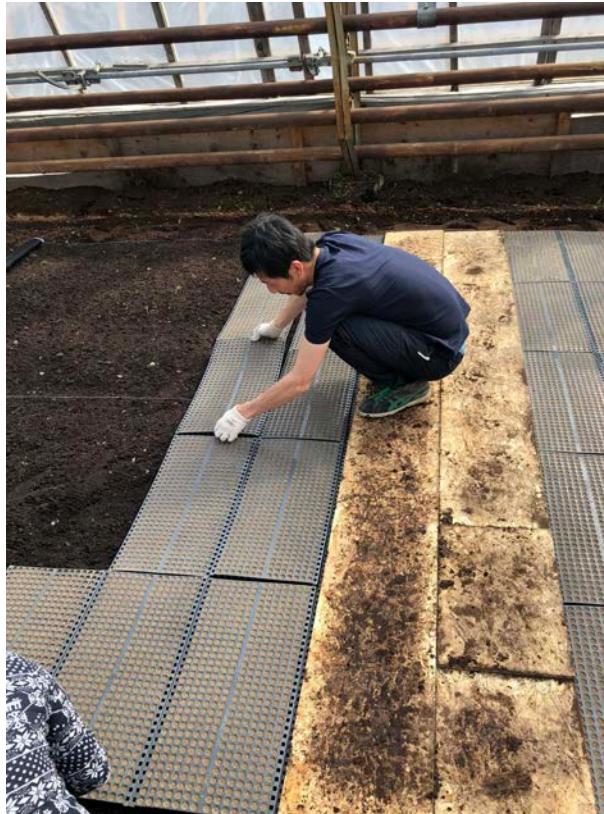
技術指導の経過

年/月/日	内容
16/9/20	サハリン州政府とチプリチニー社を訪問。
12/3	チプリチニー社にて技術支援のスケジュール等について提案、協議
17/2/9	栽培の現状把握と技術協力の内容や移植栽培の方法について (チプリチニー社、国家農業サービスセンター「サハリン」、サハリン州政府)
5/18～19	サハリン方式による定植の視察 (チプリチニー社圃場)
7/25～26	生育状況の調査
8/21～23	チプリチニー社の北海道訪問 (弊社、農業試験場、農機具メーカー)

技術指導の経過②

年/月/日	内容
18/3/13	機械搬入、種子の確認、育苗作業とコンサルの打合せ
18/3/26～ 4/7	北海道方式にて播種、育苗の技術指導
5/22～25	移植に関しての技術指導
11/6～8	収量の調査、18年総括、19年にもむけての打合せ
19/3/9～ 13	播種、育苗の技術指導
4/18	苗の経過観察

技術指導の様子（2018）



技術指導の様子② (2018)



2018年の成果と課題

- ▶ 品種によっては45t（1ha）の収量を確保（20t代の品種もあった）
- ▶ 種の発芽率の向上
- ▶ 育苗期間中の管理

2019年の技術指導の様子



技術指導の様子② (2019)



2 0 1 8



2 0 1 9



2 0 1 8



2 0 1 9



2019年

- ▶ 品種によっては45t（1ha）の収量を確保
 - ▶ 平均50tの収量
- ▶ 種の発芽率の向上
 - ▶ 85%～95%達成
- ▶ 育苗期間中の温度管理
 - ▶ 農場長との打合せを重ね入念に指導する

今後の課題、展開について

- ▶ 収穫、貯蔵部門での北海道方式の導入
- ▶ 移植栽培マニュアルの策定
- ▶ チプリチニー社の実績を活かし、その他極東地域に展開
- ▶ 作業機の消耗部品交換



終わりに

- ▶ 現地では、北海道銀行
- ▶ アドバイザリー契約などでは、北海道総合商事
- ▶ 補助金関係では、道銀総合研究所
- ▶ 機械輸出では、メーカーなど様々

協力なしでは成し遂げることが出来なかつたプロジェクト